

## 今日のキーワード 「大学生の就職」、好調続く（日本）

「大学生の就職」は、文部科学省と厚生労働省が共同で調査する「大学等卒業者の就職状況調査」で知ることができます。両省は、共同で大学などの卒業（予定）者の就職（内定）状況について、年4回（10月、12月、2月、4月の各1日時点）の調査を行い、各翌月中旬頃に結果を発表しています。地域別、文系理系別、男女別などの状況も把握できます。

### ポイント1

## 3月卒業予定の就職内定率は1.1ポイント上昇の87.8%

### 最終的な就職率は97%を超え、過去最高を上回る可能性が高い

- 18日に発表された「平成27年度大学等卒業予定者の就職内定状況調査（2月1日時点）」によると、今春卒業の大学生の就職内定率は、前年同期比1.1ポイント上昇の87.8%となりました。これは5年連続の上昇です。4月1日時点での最終的な就職率は、昨年の96.7%を上回り、調査開始以来の過去最高だった2008年春の96.9%をも超える可能性が高まっています。
- 企業収益が2014年度から2年連続で過去最高益を更新する見通しなど、順調な拡大を示しており、企業の採用意欲の高まりが反映されています。

### ポイント2

## 女子と理系が内定率は優勢

### 地域別では関東、中部が高い

- 項目別に見ると、男女別では、女子の内定率が89.3%（前年同期比1.0ポイント上昇）と、男子の86.5%（同1.2ポイント上昇）を例年通り上回っています。また、理系文系別では理系が90.2%（同1.5ポイント上昇）と文系の87.3%（同1.1ポイント上昇）を上回っています。
- 地域別では、関東の91.8%（前年同期比0.3ポイント上昇）が最高で、次いで中部が87.9%（同3.4ポイント上昇）と続き、最低は中国・四国の80.1%でした。



### 今後の展開

## 2017年春の新卒採用も好調続く

### ■非製造業の採用意欲が高い

既にスタートしている2017年春の新卒採用も順調な見込みです。日経新聞社の調査によれば、主要企業の大卒採用数は、今春に比べ10.7%増加する見通しです。世界景気の減速懸念や資源安などから、製造業の一部には採用を手控える動きが見られるものの、小売りやサービスなど非製造業の採用意欲が旺盛のようです。

### ■新入社員は「ドローン型」

日本生産性本部が毎年発表している、今年の新入社員のタイプは、「ドローン型」となりました。強い風（就活日程や経済情勢の変化）にあおられたが、自立飛行を保ち目的地に着地（希望の内定を確保）できた。技術革新（スキルアップ）により、様々な場面での貢献が期待できる、というのが理由です。ドローン君達の今後の健闘を期待したいものです。

### ここも チェック!

2016年 3月 8日 日本の主要企業の業績見通し  
2016年 2月16日 最近の指標から見る日本経済（2016年2月）

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。